

「グローバルQC・改善発表会2018」を開催 海外の現地法人選抜メンバーが 綾部(本社)に集結します!

中期経営計画に謳った「グローバル力」 「人財力」向上の総仕上げです

日東精工では来たる11月5、6日に「グローバルQC・改善発表会2018 日本大会・世界大会」を京都府綾部市の本社で開催いたします。弊社中期経営計画「日東パワーアッププランFINAL」では「グローバル力の強化」「人財力の強化」を謳っており、この中期4ヶ年計画の最終年の総仕上げとして開催するものです。

このニュースレターで随時ご紹介してきましたが、たとえば、本年1月にインドネシアのPT.NITTO ALAM INDONESIAが現地ねじメーカーから事業譲受を実施し、ブカシ工場(第2工場)を設立し、生産能力を拡大させています。またマレーシアのMALAYSIAN PRECISION MANUFACTURING SON, BND.を持分適用会社から当社の子会社化とし事業拡大を目指しています。5月には精密プレス加工の株式会社伸和精工を子会社化いたしました。深圳、香港に子会社を有していることもあり、さらに中国での事業拡大を目指していきます。米国では自動車向けの組立関連が堅調で、よりお客様ニーズに対応するためにNITTO SEIKO AMERICA CORPORATIONの移転決定は、前号のニュースレターでご報告したばかりです。既に韓国メーカーとの連携、共同開発が進んでいますが、今後、新興国を中心に新しい動きが期待されるものです。

このように弊社では着実にグローバル化を進めているわけですが、それぞれの国で自国だけの縦

展開だけではなく、互いの強みを生かし合う横展開を広げていくことで、モノづくりのグローバル化が進化だけでなく、深化していくでしょう。



グローバルに人財力強化!

「海外への進出は人件費などのコストを抑えるためですか?」と質問されることがありますが、そういう考えはまったくなく、弊社の理念「お客様満足度120%」を日本だけでなく、海外でも達成するためのものです。ですから、それぞれの国の従業員をリスペクトし「人財力」を向上させていく必要があるのはいうまでもありません。

今回の「グローバルQC・改善発表会」には、台湾、中国、インドネシア、タイの海外現地法人4社(マレーシアは特別聴講)の選抜メンバーが来日します。各国でのQC大会を勝ち抜いてきたグループが日本で各国の改善事例を発表いたします。事例報告を通し、問題点や今後の可能性を洗い出し、共有できるものを見つけていきます。同じテーマでディスカッションをし、意見交換を重

ねていくことで、日東精工グループの一体感の醸成も図っていきます。来日メンバーは本社3事業部の各工場や協力会社を見学、研修し、日本のモノづくり・最新技術を習得してもらうことで、日東精工グループ国内外全体の技術力の底上げにつなげていくものです。

新しい絆やつながりを願って 地元、綾部の中学生と交流会を開催

また来日メンバーには社外での研修も企画しており、異文化体験などのプログラムを予定しています。11月9日は綾部市長への表敬訪問のほか、5ヶ国以上の外国人が一堂に会するという機会は稀なケースなので、地元、綾部市の豊里中学校で「グローバル交流会」も開催します。

綾部市は、人口はわずか3万3000人の市ではありますが、山崎善也綾部市長が日本開発銀行（現

日本政策投資銀行）の国際部長であった経歴もあり、英語教育、国際教育にとっても力を入れています。もともと戦後まもなく日本で初めて「世界連邦都市宣言」を行った市でもあり、誰もが不可能と疑った「中東和平プロジェクト」を成功させ現在も継続させるなど、小さいながらも視野を広くもったグローバル都市といえるでしょう。

弊社の海外現地法人の社員ならびにサポートする本社社員にとって、そして地元の若い世代にこの「グローバル交流会」がよい刺激となり、新しい絆、つながりが生まれていくことを祈念しています。

日東精工のマスコットキャラクター「ねじとくん」もグローバルに活躍しています。そもそも彼の産みの親はインドネシアからの研修生です



地域に勇気と元気をもたらした 「金メダル」を綾部市長が称賛されました！



今年8月にインドネシアのジャカルタ・パレンバンで開催されたアジア大会「パラグライディング」の男子団体チームの日本代表に、弊社産機事業部の岩崎拓夫が選出され、クロスカントリーの部門で見事、金メダルを獲得しました。5日間にわたる競技で、前日まではリードされていたのを、岩崎の大活躍で逆転勝利したものです。

9月10日に当社が本社をおく綾部市役所に岩崎が報告のために表敬訪問し、山崎善也綾部市長からは「災害などが相次ぐ中で久々の明るい話題で嬉しくなりました」とコメントをいただきました。さらに綾部市役所の公式アカウントだけでなく、右の写真のように山崎市長個人のFacebookからも情報発信いただきました。

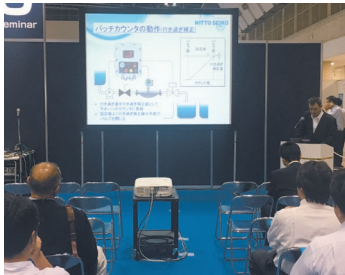
岩崎は綾部の隣の舞鶴市生まれであり、また現在の住まいは別の隣の福知山市です。綾部市はもちろん、近隣・京都府北部広域の人々に勇気・元気をもたらしてくれたことは、弊社の喜びであり誇りともなりました。



山崎善也綾部市長のFacebook。

「第28回計量計測展」&「第21回関西機械要素技術展」に出展 時代のニーズ&変化にフレキシブルに対応しています

日東精工は本年創業80周年を迎えておりますが、スタートはファスナー（工業用ねじ）ではなく、量水器など流体計測機器から歴史は始まっています。当社制御システム事業部では、現在も造船、食品、医薬分野などに向けた流量計を製造販売。9月26日から28日まで東京ビッグサイトで開催された「第28回計量計測展（INTER MEASURE 2018）」にも出展し、高精度な流量計や防爆エリアでも使用可能

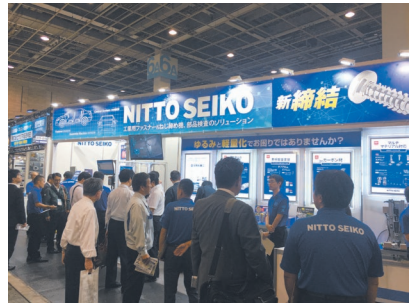


計量計測展の日東精工ブース/下はセミナーで講師を務めた制御システム事業部設計二課高井

な流量制御機器などの製品展示を行いました。

また10月3日から5日までは、インテックス大阪で「第21回関西機械要素技術展」が開催され、ファスナー、産機、制御システムの3事業部共同で出展し、日東精工のファスニング・ソリューションを来場者の方々にアピールしました。

9月に名古屋で開催された「第1回クルマの軽量化技術展」同様にパネルや映像だけでなく、現物やデモ機も多数ご用意し、異種材接合や軽量化、省力化に貢献する製品や高い技術力を直接体験いただくことができました。



ねじ大好き!

コラム

ねじがご縁の「絆コンサート」

10月27日に弊社本社のある綾部市郊外の古民家で喜納昌吉さんの「第1回絆コンサート」が開催されます。誰もが耳にしたことのある代表曲「花」は世界中でカバーされ、ビートルズの「イエスタデイ」よりも歌われているそうです（世界で3000万枚以上の売上）。

「大きな会場でのコンサートも大事だが、少人数で〈つながり〉を意識するLIVEをやりたい」という喜納さんの希望に沿う形で企画されるものですが、そもそもは書籍『人生の「ねじ」を巻く77の教え』で喜納さんが綾部の街や世界連邦に興味をもたれたことがきっかけです。モノとモノをつなげるねじが、綾部の街と世界的歌手もつなげたというわけですね。



「あやザニア」で「ねじづくり体験!」

10月27日に綾部市のI.Tビルで「あやザニア」が開催されます。これは綾部市の商工会議所青年部が市内に事業所や工場をもつ企業の協力のもと、幼児や小学生などに職業体験やモノづくり体験の場を設けるものです。世界19ヶ国で展開される職業体験テーマパーク「キッザニア」にあやかっています。



写真はインテックス大阪で開催した「ねじクイズ」

当社では8月にインテックス大阪で開催された「夏休み2018宿題☆自由研究大作戦」に出展し高い評価をいただきましたが、その経験・ノウハウをもとに「あやザニア」でも、紙粘土と3Dプリンタによる金型を用いた本格的な「ねじづくり体験教室」などを開催いたします。



「ありがとう」の効用

1 991年4月から約3年間、現地法人の責任者としてタイに駐在したことがあります。そのときに記した報告書を改めて眺めると、赴任間もなくのころは「クーデター発生でアパートに缶詰」「包丁作製事件」「レンタカータイヤ脱落事件」「コブラ出沒事件」などと物騒な見出しが続きます。

いまは事情もずいぶん変わっていますが、当時は文化の違い、国民性の違いで誤解されたり、恨まれたりすることも多く、極端に言えば身の危険を感じることも少なくはありませんでした。

しかし国や文化は違えども基本は相手を尊重する、公平公正さをもち続けることです。そうしているうちに誤解や反発をしていた人たちから「ありがとう」という言葉や態度を受け取ることができました。この「ありがとう」がその後、タイで仕事を進めるうえで大きな支えとなりました。

「ありがとう」は、ほんとうに大事ですね。

☆

さて、NHK放送研修センターの合田敏行さんが雑誌の特集のなかで、「会話のなかにどれだけ『ありがとう』を挿入できるか、というレッスンをするといい」と紹介されていました。適切なタイミングで述べる「ありがとう」は相手に「そこまで自分のことを考えてくれるのか」という気持ちを起こさせ、胸に秘めていた言葉や本音を引き出しやすくするといえます。そして「会話や文章のどこかで感謝しよう、ありがとうを言う」と意識していると、相手の話を聞き逃さない効果も生まれるそうです。

また、これはアメリカでの実験ですが、要件だけを記したメールと、文頭文末に謝辞を記したメールの返信率を比べると、後者のほうが20ポイント以上も高かったという結果もあるようです。ビジネス

連載⑩

あやべ ちょっと寄り道

伝統の黒谷和紙でオリジナル御朱印帳

「黒谷和紙工芸の里」は、廃校となった小学校の跡地を利用した施設で黒谷和紙づくりの工程、作品の展示や職人の紙漉き技術の見学ができるようになっています。1週間前までに予約すれば、紙漉き体験・和綴じ本づくり体験ができ、「御朱印帳」をつくります。

御朱印集めがいまも根強いブームですが、800年の伝統をもつ黒谷和紙のオリジナル御朱印帳なら、よりご利益をえられるかもしれません!



©綾部市観光協会

では簡素・簡潔が大事ですが、わかりやすく感謝を込めるということも肝要です。

たとえば「いつもお世話になっております」というフレーズはメールなどでもよく見かけますが、「いつもお世話になりありがとうございます」と口にしたリ、記したりしている方は、じつは多くありません。どちらも間違いではありませんが、たった5文字が加わるだけで、丁寧さの印象がずいぶんと変わります。弊社の人材教育をまとめた

『人生の「ねじ」を巻く77の教え』（ポプラ社刊）のいちばん最後77番目の教えは何だかご存じでしょうか？ 答えは「ありがとう」のチェックリスト」です。

「ありがとう」の言葉は私たちの究極の合言葉ともいえるとして、たくさんの「ありがとう」を紹介し、「ねじ」さんホントにありがとうございます。で結んでいます。

身近な言葉、「ありがとう」を、ぜひもう一度見直してみたいものです。

※「日経おとなのOFF」206号参照